

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：32505
 研究種目：若手研究
 研究期間：2018～2022
 課題番号：18K12323
 研究課題名(和文) 1930年代連邦作家計画のガイドブックにおけるアメリカン・ナラティブの創出

 研究課題名(英文) American Narratives Emerging from the Guidebook Series of the Federal Writers' Project in the 1930s

 研究代表者
 峯 真依子 (Mine, Maiko)

 中央学院大学・現代教養学部・准教授

 研究者番号：90808693
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、連邦作家計画が失業中の作家に書かせた各州と各都市のガイドブックが、いかに自己イメージを醸成させながら、アメリカの国民性と文化についてのナラティブを紡いだのかを明らかにすることを目的とした。それによって得られた知見、および明らかにできたことは、以下の通りである。

ガイドブックは、アメリカ人をヨーロッパから切り離し、アメリカを真の故郷にしようとする愛国的な意図があった。また、開拓者のイメージを付与された肉体労働者、新移民、マイノリティーもそこに多く描かれることで、より包括的にアメリカ国民の再定義が行われた。さらにはロードで人々をつなぐ語りは、国民統合のナラティブとして効果的に機能した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義としては、連邦作家計画はアメリカの自己イメージを1930年代に新しく生み出したのではなく、作家たちが全米で大規模に発掘・再発見し、豊かな国民のナラティブとして、一般の人々に広く伝え、共有させたことを、多くの一次資料から、具体的に明らかにした点である。社会的意義としては、マイノリティ、地方文化、1920年代には顧みられることが殆どなかった労働者階級をガイドブックに書き留めることがアメリカの民主主義を保障するという理想のもと、アメリカ政府がアメリカン・ナラティブを作った事実を資料で明らかにした点である。それによって現在の分断の時代の解決の糸口を先取りしていることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to provide a comprehensive understanding of the following: i) how the Federal Writers' Project (FWP) hired unemployed writers to document narratives that defined who Americans were and what American culture encompassed, through guidebooks for different states and cities, and ii) how they contributed to the creation of a distinct American self-image. The study's achievements are as follows:

The guidebooks were designed with a patriotic purpose in mind, aiming to foster a deep sense of belonging among American people by cutting off their ties with Europe. They redefined the nation's identity, depicting working-class people strongly overlapped with the spirit of the frontier, while also focusing on new immigrants and minorities. By narrating the experiences of people journeying through the country, the guidebooks functioned as a narrative to unite the nation, connecting individuals mile by mile. This was a significant contribution of the FWP.

研究分野：英文学および英語圏文学関連

キーワード：連邦作家計画(FWP) ニューディール政策 米国各州案内 フェデラル・ワン スターリング・A・ブラウン ロード・ナラティブ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究はその背景として、21世紀になり、多文化社会における様々な民族の共生という従来の理想が次第に齟齬をきたすようになった事実に鑑みて、連邦作家計画がアメリカの国民性と文化の創出に果たした役割を振り返ることで、分断の時代を超越する一助として、連邦作家計画を再評価する必要があると考えた。

(2) 国内はもとより、本国アメリカにおいても、連邦作家計画の中でもとくにガイドブックの研究はその数が少なく、歴史研究が数えるほど行われていたのが現状であった。連邦作家計画が政府による文学プロジェクトであったにもかかわらず、文学的なアプローチは Sara Rutkowski の研究以外に皆無の状態であり、連邦作家計画を通じて、文学に期待された当時の仕事が、十分に分析・評価されているとは言い難い状況だった。そこで本研究は、アメリカという国が、自国の国民性と文化についてのいかなるナラティブを手に入れたのかをあくまでも文学との関わりにおいて明らかにする必要があると考えた。

2. 研究の目的

(1) アメリカを語るナラティブが、様々な州の年間最大 6,500 人の連邦作家の筆を通して、いかに生成されていったのか。そして、作家たちが、様々なマイノリティや地方のコミュニティで生きる普通の人々の多声的なナラティブを拾い上げることで、アメリカを語る、いかなる新しいナラティブを形成していったのか。全米各州と主要都市のガイドブックのテキスト分析を行い、各州のガイドブックに何がどう書かれているのか、それによってどのようなアメリカン・ナラティブが生成されていったのかを明らかにすることを、主な目的とした。

(2) いわゆるマイノリティの声をアメリカの作家たちが書きとめ、ガイドブックという形で大量に出版し、アメリカ全土の人々の生活を別のアメリカの人々に知らせた国家的な文学プロジェクトは世界にも類がなく、この分断の時代にこそ、(1) で明らかになった成果によって、現在のアメリカ社会の分断を突破する一助となること、かつ一つの社会貢献の道を開いていくことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 連邦作家計画についての歴史研究の代表論者の議論は本研究開始前にすでにフォローしていたが、それに加えて本研究のテーマであるガイドブックで生成されたアメリカン・ナラティブを明らかにするため、まず、全州と代表的な都市のガイドブックのすべてを国内から収集し、読み込みを行い分析した。

(2) 連邦作家計画の資料が残されている複数のアメリカの図書館において、没になった原稿の調査を行うことで、アメリカン・ナラティブの創出に寄与すると考えられた原稿とそうでなかった原稿との比較検討する予定であったが、パンデミックのため渡航ができなかったため、研究方法を絞る選択を迫られた。結果、渡航が可能となってから、ガイドブックを書く際に作家が従わなければならないワシントン D.C. から連邦作家に送られたガイドブック・マニュアルの改訂版も含むすべてのバージョン、またディレクターのヘンリー・オルズバーグの指示のメモの一部を公文書館で収集し、読み込みを行い分析した。

4. 研究成果

(1) まず、いずれのガイドブックもガイドブックでありながら自動車旅行以外の情報の多さが顕著であり、各ガイドブックのうち約三分の二の分量を占めるのが、州の歴史、地方文学、産業、建築、アート、文化、風習、伝承、ひいては地元新聞に掲載された事件やゴシップの引用などもあった。海外からの旅行者にアメリカの魅力进行宣传する観光案内とは言い難く、むしろ読者はアメリカ人であったと考える方が自然であり、アメリカ人に自国の特徴を隅々まで紹介することで、当時まだヨーロッパにあった帰属感を完全に切り離し、アメリカを真の故郷(ホーム)にしようとしたこと、アメリカ的生活を知らせる教育的効果を含んでいたことが明らかとなった。

(2) とくにシリーズで最初に出版されたアイダホ州のガイドブックにその特徴が顕著であったが、林業、漁業、農業などで日々ハードワークをこなす肉体労働者の描写が比較的多いことに着目した。肉体労働者についての描写には、アメリカのかつての開拓者の姿が重ね合わせられており、大恐慌前にもはやされた中産階級ではなく、肉体労働者を「本当のアメリカ人」「魂を持つアメリカ人」という紹介を伴い明確に描いていたことから、連邦作家計画のガイドブックは、恐慌期にあってヒーローの再定義やアメリカ国民の再定義を行う意図があったことを明らかにした。

それは、1920年代の移民排斥の時代に対するアンチテーゼでもあり、アメリカ国民とは、アングロサクソン系だけではなく、あらゆる多様な人々がアメリカ人であるというアメリカ人についての新たな定義を行うために、新移民、アフリカン・アメリカンなどすべてを包摂するナラティブを、彼らマイノリティの生活や移民の歴史を積極的にガイドブックに記述することで、創出させたことを明らかにした。アフリカン・アメリカン作家の雇用促進と、ガイドブック中のアフリカン・アメリカンについての差別的な記述の修正の指示を、スターリング・A・ブラウン率いるニグロ・アフェアーズの設置によって改善しようとしたのは、同じ文脈において理解することが可能であることも明らかにした。

(3) この政府による文学プロジェクトが、そもそもどこから来たのか、彼らのいかなる文学的な想像力で、当時の四十八州分の四十八冊のガイドブック、および1942年4月の時点で276冊の関連本、701冊のパンフレット、340冊のリーフレットという膨大な作品を連邦作家たちが生み出したのかを明らかにした。連邦作家計画は、その文学的ビジョンの拠り所として、詩人のウォルト・ホイットマンが詩で歌ったアメリカ人、すなわちアメリカ国民が多様な人々から成るとするイメージや、オープンロードのイメージを、ガイドブックを通じて実現するという途方もない夢を希求し、実際に出版物を通じて実現を試みた。

読者が自動車でアメリカ中を運転することで、ホイットマンの詩のイメージのように、見知らぬ人々と路上で出会うこと、路上に出て自由を体験することを、促すことが、一つの連邦作家計画の文学的な野心であった。そのようなガイドブックは、20世紀アメリカの映画・文学・ポップカルチャーに顕著なロード・ナラティブの先駆けとなったことを示唆した。

(4) 近代国家にふさわしい国家的歴史やアメリカ文化があることを国民に示し、かつ国民がアメリカ人であることの自覚を促すビジョンのもと、連邦作家計画が「ロード」「車」「移動性」といったコンセプトを用いて、国民統合のためのナラティブとしてガイドシリーズを作った側面があったことを明らかにした。それに関して特筆すべきことは、ガイドブックが国民統合のナラティブに用いられた必然性として、歴史的な因果関係の可視化を避け、あくまでも地理的な語りによってナラティブを進めることのできるという、ガイドブックの特徴である。

作家に書き方を指南したアメリカン・ガイド・マニュアルには、あくまでも道に沿って次々と話題を展開させながら書くことを求め、一つの歴史的問題に立ち止まることのないよう、時系列を避けるように、方針を出していることが確認された。時系列でAという場所で起きたことを時系列で語る場合、ネイティブ・アメリカンやアフリカン・アメリカンに対するアメリカという国の加害の歴史を振り返る際に、責任を語る必然性が生じる。しかし、一般的なガイドブックの第3部にあるガイドツアーの個所で確認できるように、歴史的な様々な対立がロードという地理的な語りによって不可視化された。A地点からB地点へと車で移動するための記述は、あくまでも地理的な記述であり、意図的に様々な事件には深入りしていない。

(5) 多様な歴史と文化と人々の統合を可能にするという点で、ロードという地理的な語りを採用されたのと同様に、ガイドブックに多く描かれている、自然の描写、いわば「プリミティブな自然」が、国民を一つに統合するイメージを読者に提供したことを明らかにした。この「プリミティブな自然」に対する賛辞は、

じつは建国当初からアメリカ国内で、ヨーロッパに対して自国を宣伝し、説明する際に用いられたレトリックであり、連邦作家計画のガイドブックに特有なものではないが、ガイドブックにおいても、移民国家としての絶えざる難問である個々人の歴史観の違いをいかに「プリミティヴな自然」で超越しようとしたことを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Maiko Mine	4. 巻 5巻2号
2. 論文標題 Re-Birth of a Nation: The Federal Writer's Project and the Epic on the Road	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『現代教養論叢』 中央学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 71-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Maiko Mine
2. 発表標題 Tracing American Road Narratives' Origins to Federal Writers' Project Guidebooks (1935-1943)
3. 学会等名 The British Association for American Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maiko Mine
2. 発表標題 Literacy and Neo-slave Narratives
3. 学会等名 Neo-slave Narratives Conference グリニッジ大学主催、リバプール大学共催 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maiko Mine
2. 発表標題 Sterling A. Brown's Editorial Revolts at the Federal Writers' Project
3. 学会等名 The American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Maiko Mine
2. 発表標題 The American Epic: Federal Writers Project Guidebooks Represented in the “Whitmanesque” Way
3. 学会等名 日本ホイットマン協会 第58回大会 (on Zoom) 英語発表
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Maiko Mine
2. 発表標題 American Guidebooks and Diversity: Re-Birth of a Nation
3. 学会等名 37th Conference of the Japan Society for the Comparative Study of Civilizations (Chuo Univerisity) 英語発表
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 峯 真依子
2. 発表標題 無数のディスコースからなる一つのアメリカ 連邦作家計画ガイドブックについての試論
3. 学会等名 多民族研究学会第31回全国大会 (於: 福岡女子大学)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 峯 真依子 (共著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 15
3. 書名 『自然・風土・環境の英米文学』	

1. 著者名 峯 真依子 (共著者)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 13
3. 書名 『エスニシティと物語りー複眼的文学論』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

連邦作家計画に関する初の包括的な研究書である本をマサチューセッツ大学出版局から、2022年11月に、Rewriting America: New Essays on the Federal Writers' Project (Edited by Sara Rutkowski)として共著で出版した (ISBN 9781625347008)。この図書の企画は2019年から始まった。担当箇所の章の元となった原稿そのものは、九州大学に提出した博士論文の一部を大幅に加筆・修正したものであり、直接的には本研究の成果によるものではなかったが、その出版過程における編集者との議論と編集作業は、本研究課題によって得られた知見に大きく基づくものであったといえる。

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------